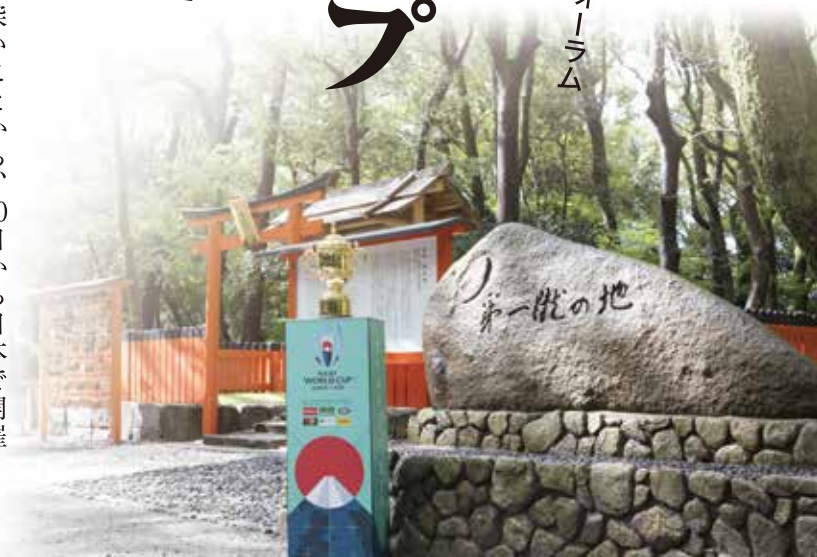
糺の森財団・下鴨神社崇敬会九州本部設立記念フォーラム

# ラグビーワールドカップ2019とラグビー神社

世界文化遺産・賀茂御祖神社（下鴨神社）と糺の森（京都市左京区）の平安時代の国風文化を今に伝える社殿群と平安京以前からの植生を残す原生林を後世に守り継ごうと活動する公益財団法人「世界遺産賀茂御祖神社境内糺の森保存会」（糺の森財団）、森と神社を大切に思い、奉賛の基盤を築く「世界遺産下鴨神社崇敬会」の九州本部が設立された。関東、東海、関西、中・四国に続く地方本部で、今後九州全域で保全に寄与する活動を展開する。

九州本部の設立を記念し、財団と崇敬会は下鴨神社がラグビーとも縁深いことから、20日から日本で開催される「ラグビーワールドカップ（W杯）２０１９」をテーマにしたフォーラム（共催・西日本新聞社）を福岡市で開いた。森喜朗・ラグビーワールドカップ２０１９組織委員会副会長（元首相）▽森重隆・日本ラグビーフットボール協会会長▽坂田好弘・関西ラグビーフットボール協会会長▽女優の竹下景子さん▽新木直人・下鴨神社宮司のパネリスト５人がラグビーの魅力を語り合った（司会はラグビージャーナリストの村上晃一氏）。



# 最高峰の体感すべし

# ラグビーを

## 敵味方越え尊敬し合う

ラグビーW杯2019組織委員会副会長
森　喜朗氏

元首相。東京五輪組織委員会会長。早大でラグビー部に所属した。ラグビーW杯誘致の最大の功労者。石川県能美市出身。82歳。

戦後間もない1948年、小学5年生の時、ラグビーと出会った。早稲田大ラグビー部のOBだった父が郷里の石川の実家に部員を約50人、合宿に迎えた。その夏、慶応大との練習試合があり、選手たちのジャージー姿が「王子様のよう」で憧れた。以来、今までラグビーに関わってきた。日本でワールドカップを開こうと世界中を訪ねたが、当初はばかにされた。日本代表が弱く、盛り上がるか皆、懐疑的だったからだ。辛抱して各国を訪問した。日本開催が決まった時はうれしかった。

自己犠牲の精神でプレーするラグビーは試合後、敵味方を越えて尊敬し合えるスポーツだ。前回（2015年）のワールドカップイングランド大会で日本が優勝候補の南アフリカを破った後、3万人のスタンドは日本の応援団のように沸いた。私はそばにいた南ア協会長夫妻に「いい試合をしてもらって、ありがとう」と握手を求めたが、払いのけて帰ってしまった。だが数年後、「恥ずかしいことをした。19年の日本大会の際、東京でお目にかかりおわびがしたい」と手紙が来た。

女優
竹下景子さん

1970年代からテレビや映画で活躍。映画「男はつらいよ」シリーズではマドンナ役に3度起用された。名古屋市出身。66歳。

## 日本の優勝を期待したい

今大会の横浜である試合で初めてラグビーを観戦する。とても楽しみだ。

ラグビーはずっと、たけだけしいスポーツとばかり思っていたが、高校時代にラグビー部主将だった同い年の俳優平田満さんが色紙に「一人はみんなのために、みんなは一人のために」と書いていた。それがチームワークを重視するラグビーでよく使われる言葉と知り、ラグビーの精神をちょっとだけ理解できた。

ラグビー憲章の競技規則の冒頭に品位・情熱・結束・規律・尊重という言葉があると伺った。ラグビー関係者はグラウンドの内外でまず品位を重んじることを実践されると聞いた。そういうスポーツのトッププレーヤーたちが集まる最高峰の大会を日本で観戦できる。ラグビーということを越えて楽しめたり、感動したり、希望を持ったりできると思うとわくわくしてくる。私も同じ空気を吸いたいと思う。プレーだけでなく、世界各国の応援の仕方も見てみたい。日本代表が優勝すると予想する人は少ないようだが、私は番狂わせを期待したい。

## 勇敢で強いタックル見よ

日本ラグビーフットボール協会会長
森　重隆氏

明大から新日鉄釜石に進み、日本選手権4連覇に貢献。母校福岡高校の監督も務めた。森硝子店社長。6月から現職。福岡市出身。67歳。

中学時代はバレーボールをやっていた。入学した福岡高校はラグビーが強く、入部した。ラグビーをやって心を開ける仲間ができたとか、いろいろ良かったが、痛いことを我慢できるようになったことが大きい。タックルは痛い。勇気がいるけれども自分が行かなければ後ろの仲間が痛い目に遭う。仲間に信頼されるにはタックルしなければならないと学んだ。今大会の日本代表は勇敢にタックルし、本当に強い。良く仕上がっている。初戦のロシア戦に油断せずに臨み、ベスト8入りを達成してほしい。

6月末、日本ラグビー協会長に就任した。4月28日、福岡市の料亭「稚加栄」で森喜朗さんから肩をポンとたたかれ「この人のために頑張ろうと言える人を持ってこないといけない。あなたがやりなさい」と言われ、「はあ?」という感じだった。それからイカ刺しは食えないし、森伊蔵（芋焼酎）をカーッと飲んでも酔えなかった。

日本のラグビー界は競技人口増など課題山積だが力いっぱい頑張り、一つ一つ乗り越えていきたい。

## 生きていくヒント学べる

関西ラグビーフットボール協会会長
坂田好弘氏

同志社大から近鉄へ。「空飛ぶウイング」と呼ばれ、日本人で初めてワールドラグビー殿堂入り。12年から現職。大阪市出身。76歳。

高校の合格発表の時、グラウンドでラグビー部が練習していた。それまで狭い道場で柔道をしていた私は広々とした場所を強そうな選手たちが走り回るラグビーに衝撃を受けた。高校、大学、社会人で通算17年選手をやり、36年指導者を務めた。ラグビーは苦しい目にも痛い目にも遭うし、ケガもある。それらに真っすぐ向き合い、どうすればいいか考え抜くことが求められる。そのことは人生を送る上で役立った。苦難にぶつかったとき、「ラグビーならこうして克服できた」と生きるヒントを見いだした。「ラグビー・オープンズ・メニー・ドアーズ」（ラグビーは多くの扉を開く）という言葉もある。選手も観客も試合後は仲間になれる。今大会には世界中から40万人もの観客が訪れる予定で楽しみだ。

今大会の日本代表では現役時代の私と同じウイングを務める福岡県古賀市出身の福岡堅樹選手に注目している。彼は「緩急」を大切にしていて、相手に触れられず抜き切る最高の技術を身に付けつつある。ものすごくいいところまできている。

## 未来を託す子育成に尽力

下鴨神社宮司
新木直人氏

京都国学院卒、旧大阪外国語大別科（現大阪大）修了。京都市伝統行事伝承者。著書多数。京都市出身。82歳。

下鴨神社は崇神天皇の時代の紀元前90年、瑞垣（神社を囲む垣根）が修造されたとの記録が残る歴史のある神社だ。神社には八百万の神と言うように何もかもの神様が宿っておられる。下鴨神社境内にある末社「雑太社」がラグビー神社とも呼ばれているが、「雑」という字はたくさんのご神徳があり、「太」には強いという意味がある。力強い神様が祭られている。

今大会で日本代表が素晴らしい成績を上げ、日本のラグビーが盛り上がっていけばいいと思う。神社は未来を託す子どもたちを育てることに尽力したい。ラグビーは体を鍛え上げてぶつかり合わないとケガをしてしまう。そこで、関西ラグビー発祥の地とされる糺の森の馬場で毎年秋、大勢の子どもたちが参加するタグラグビーの大会を開催している。キックもなく、タックルの代わりにリボンを取り合う初心者向けラグビーなので、スポーツが苦手な子でも取り組める。

九州の方々にも、昔のように強く京都の文化とつながっていただきたい。

雑太（さわた）社

### 下鴨神社とラグビー

糺の森の下鴨神社境内にある末社「雑太社」は、ご祭神の神魂命のご神名から、魂は玉に通じるとして球技上達のご神徳があるといわれている。下鴨神社では毎年正月4日に「蹴鞠初め」が行われる。明治43（1910）年9月10日、雑太社前の糺の森馬場で旧制第三高等学校（現京都大）の学生が慶応義塾（現慶応義塾大）の学生にラグビーを習い、関西で初めてラグビーボールが蹴られた。これを記念し、雑太社の鳥居のそばに昭和44（1969）年、京大ラグビー部のOBたちが「第一蹴の地」の石碑を建立した。平成29（2017）年5月10日、日本で開催されるラグビーワールドカップ2019の組み合わせ抽選会が京都市であった際、世界各国の代表が第一蹴の地を視察した。

［令和元年九月十九日　西日本新聞朝刊記事より］